

中村元記念館

Nakamura Hajime
Memorial Hall
नाकामुरा हाजीमे स्मारक सभागृह

東方学院松江校

The Eastern Academy at Matsue

受講の手引き



中村元先生とガンガー（パトナ）一行が舟で流氷ながれでせめてガンガーサーガルを渡る

東方学院

理念

〈人間〉の回復をめざし
財団法人東方研究会を母胎として
ここに『東方学院』を開設しました。
『東方学院』は本学院の理想に賛同する学者個人と
そのもとで学ぼうとする学徒とによって構成される
共同体としてのグループの連合です。
〈個人指導の場の共同体〉とでもいうべきものをめざしています。

The Toho Gakuin (The Eastern Academy) was established
with the hope of contributing to the restoration of human integrity.
This Academy is a cooperative body of various academic communities
of scholars and students wishing to learn,
in which scholars provide personal guidance to the students.
Above all, our aim is to have this Academy be the rallying point
for students and scholars.

東方学院松江校の運営は特定非営利活動法人中村元記念館東洋思想文化研究所が行います。

目次

「慈しみ」	3
ごあいさつ	4
東方学院とは	4
東方学院松江校 2017年度 講義一覧	6
2017年度 定期講義 講義内容	8
2017年度 集中講義 講義内容	14
2017年度 年間スケジュール	27
東方学院松江校 2017年度お申し込みと 受講料のご案内	28
受講申込書	29
中村元記念館ボランティアサポーター募集	31
中村元記念館東洋思想文化研究所研究員募集	31
中村元記念館友の会入会のご案内	32
アクセス	33

表紙絵：
中村元先生とガンガー（パトナ）
—行きゆきて 流れながれて—
やがてガンガーサーガルに至る—
画：石川 馨

慈しみ

一切の生きとし生けるものは
幸福であれ 安穩であれ 安楽であれ
一切の生きとし生けるものは 幸であれ
何びとも他人を欺いてはならない
たとどこにあっても
他人を軽んじてはならない
互いに他人に苦痛を与える
ことを望んではならない
この慈しみの心づかいを
しっかりと たもて

中村元訳 ブッダのことば

中村 元

(1912~1999)



インド哲学・仏教学の世界的権威であり、比較思想学の開拓者。1500点を超える膨大な著作・論文を発表し、我が国における思想研究の分野を大きく発展させた。従来のセクショナリズムにとらわれない壮大な世界思想史を構築し、その業績は海外でも高く評価されている。

大正元年島根県松江市に生まれ、東京帝国大学でインド哲学を学ぶ。同大学名誉教授。昭和45年財団法人東方研究会（現公益財団法人中村元東方研究所）を設立。昭和48年東方学院を設立し、学院長に就任。昭和49年紫綬褒章、昭和52年文化勲章受章。平成元年松江市名誉市民。

主な著書に『広説佛教語大辞典』（東京書籍）、『初期ヴェーダ哲学史』（岩波書店）、『東洋人の思惟方法』シリーズ、『インド史』（春秋社）、他多数。

ごあいさつ



東方学院長
前田 專學
（公益財団法人中村元東方研究所理事長・
中村元記念館館長）

平成24年10月10日、私の長年の夢でありました恩師中村元先生の記念館が、大根島の中心に開設され、平成25年4月には、この記念館に東方学院松江校が、東京の東方学院本校と緊密な連携のもとに、開校されましたことは私の最大の喜びです。なぜなら大根とは、ものの根本中の根本、すなわち中村元の元を意味し、将来中海・宍道湖圏域の連携・発展の根本となり、元となり、中村元記念館と松江校がその象徴となることを願っているからです。

中村先生ご自身の書齋、毎日お使いになった34,000冊のご蔵書、その他数々のご遺品とともに、先生はこよなく愛された生まれ故郷の松江に帰ってこられました。先生は、一人でも多くの方々がこの記念館に集い、先生が開拓された学問の道を歩み、東洋の思想と文化の精華を吸収され、さらにそれを広く発信し、世界の平和と繁栄に貢献されることを願っておられるにちがいありません。

東方学院には報酬の有無を度外視して教えたいという意欲的な先生方にお集まり頂きました。当学院に入学するのに、年齢も性別も学歴も職業も問いません。唯一必須の入学条件は勉強に対する強い意欲です。それ故に東方学院では受講生とは言わず、研究会員と申します。一人でも多くの研究会員のお出でをお待ちしております。

東方学院とは

老若男女を問わず、誰もが東洋思想について学べる場所
——それが東方学院です。

東方学院は、インド哲学・仏教学の世界的権威である故中村元博士によって、1973年に財団法人東方研究会（現 公益財団法人中村元東方研究所）を母胎として設立されました。

「真に教えたい一人と、真に学びたい一人が集まれば学院は成り立つ」という中村博士の理念に基づき、学問のセクショナリズムにとらわれない現代の寺子屋として、東京本校・関西教室・中部教室で、多くの人々が東洋思想について教え、学び、日々研鑽を深めています。

そして平成25年4月、中村博士の出身地、島根県松江市の中村元記念館に東方学院松江校が開校されました。

「心の時代」といわれる現代社会、多くの人々が「どのように生きるべきか」という問いを抱えています。中村博士は生涯、インド哲学や仏教をはじめとした東洋の思想を通じて、私たちの「生きる道」を説き続けました。

学問とは真理の探究であり、その扉はいつでも、誰にでも開かれています。

あなたも東方学院松江校で、奥深い魅力にあふれた
東洋の智慧を学んでみませんか？

◆ 東方学院の特徴

- ・ 真に学を究め、道を求めたい人々の学院です。学歴・年齢・職業・国籍・性別などを問いません。
- ・ 専門家のあいだの縄張り意識の無い学院です。だれでも自由に学問を延ばすことができます。
- ・ 講師と研究会員との人間的連絡が緊密です。講師は懇切に指導をいたします。同学の人々とながく協同することが可能です。
- ・ 各講師は奉仕的に指導をいたしますから、若干の分野においては、日本におけるどの大学よりもはるかに詳しい講義がなされています。
- ・ 従来の大学ではなされていないテーマで斬新な講義や実習指導がなされています。
- ・ 学問には熱意が最も大切です。したがって熱意のある方々はいつでも入学できます。
- ・ 東方学院の講義を受講される方を本学院では「研究会員」と称します。

◆ 東方学院設立の経緯と意義

東方学院は、創立者中村元の東京大学退官とともに、昭和45年11月に文部省より財団設立の認可を受けた財団法人東方研究会（現公益財団法人中村元東方研究所）を母胎として、昭和48年に設立されました。

その大きな動機は、当時、大学に吹き荒れた学園紛争にともない、学術的には減退傾向にあり、また精神的な砂漠化のさなかにあつて、学術的精神的な拠点となりうる、小さくともしっかりした学院をつくることにありました。そして学問の自由を制約することになる縄張り意識の強いセクショナリズムを廃して、真理探究を目的とする学問本来の姿を回復するためでありました。

大学の外につくることでセクショナリズムを脱し、またカルチャー・センターとも異なる一種の私塾、つまり現代の「寺子屋」として出発しました。真に教えたい一人と真に学びたい一人が集まれば学院は成り立つ—これが創立者・中村元の信念であり、まさに東方学院の原点といえます。

幸いにも、このような考えに同調し、協力を申し出る人々が集まり、学院は開講されました。狭いビルの一角を間借りし手弁当を持ち寄って、文字どおりの「寺子屋」が始まったのです。

しかし、財団の基盤を強固にし、学院を発展させていくためには、しっかりと学問研究の場所を確保する必要がありました。そこで、創立者の私財をもとに、財団設立に協力して下さった篤志家の方々が、昭和57年「財団法人東方研究会強化募金運動」を開始されました。一高時代の同窓生（「昭8文乙クラス会」のメンバー）である中村敏夫弁護士をはじめとして、同じく星埜保雄、宇佐見鉄雄、倉知善一、新井正明氏らが発起人となり、その資金集めから場所の確保にいたるまで実に並々ならぬご尽力を下さいました。そのおかげで、諸方面から多数の賛同者・協力者を得ることができ、現在のこの場所を入手するにいたりました。東方学院は、これらの人々によって築かれた土台の上に、今日成り立っております。

以来、当学院は、優れた数多くの講師を迎え、多くの方々の善意と学問への熱意によって支えられ発展して参りました。

今後も創立者の遺志を継承し、初心を忘れることなく、ますます発展していきますことを心より念願しております。

財団法人東方研究会
名誉理事長 中村 洛子
(1919~2010)

※財団法人東方研究会は平成24年7月2日付けで、公益財団法人中村元東方研究所へと名称を変更しました。

東方学院松江校 2017年度講義一覧

定期講義

講義題目	講師名	回数	日程・時間	開講日	受講料	詳細ページ
仏教は何を説いているのでしょうか(前期)	三桐慈海	14	毎週木曜日 13:30~15:00	4/20	16,800円	8
仏教経典解説(後期)	三桐慈海	10	毎週木曜日 13:30~15:00	10/5	12,000円	8
仏典の女性たちのものがたり	岡田真水	6	第2金曜日 13:30~15:00	4/21 ^{※1}	7,200円	8
パーリ語入門	清水谷善暁	前期:14 後期:10	毎週金曜日 15:30~17:00	4/21	前期:16,800円 後期:12,000円	9
「北欧人」あるいはヴァイキングの思惟方法—もうひとつの歴史・思想・文化—	笠原愛古	6	第4土曜日 10:20~11:50	4/22	7,200円	9
観想行入門	清水谷善圭	6	第4木曜日 10:20~11:50	4/27	7,200円	10
宮沢賢治の童話を読む—信仰をさぐりながら	島田隆輔	6	第2火曜日 13:30~15:00	5/9	7,200円	10
出雲学概論	藤岡大拙	6	第2水曜日 10:20~11:50	5/10	7,200円	11
アジアの風土と民族音楽—概説と比較文化論の試み	瀬古康雄	6	第2土曜日 13:30~15:00	5/13	7,200円	11
『無量寿経』を読む	齊藤舜健	6	第3金曜日 13:30~15:00	5/19	7,200円	12
東アジアにおける歴史の変遷と仏教	藤島建樹	12	第1・第3・第5土曜日 13:30~15:00	5/20	14,400円	12
能海寛著『世界に於ける佛教徒』を読む	岡崎秀紀	6	10月~3月 第4土曜日 13:30~15:00	10/28	7,200円	13

集中講義

講義題目	講師名	回数 ^{※2}	日程・時間	受講料	詳細ページ
仏典『真理のことば』（『法句経』）を読む（その3）	前田専學	2	4/14（金） 13:30～16:50	2,400円	14
仏像の成立と変遷 —スライドを利用して—	石上善應	4	4/18（火） 4/19（水） 13:30～16:50 10:30～15:00	4,800円	15
禅の思想と文化 —鈴木正三を中心に—	加藤みち子	4	5/6（土） 5/7（日） 13:30～16:50 10:30～15:00	4,800円	16
画像で見る仏教と他の世界の 宗教とのちがひ	吉田宏哲	4	6/5（月） 6/6（火） 13:30～16:50 10:30～15:00	4,800円	17
『天台四教儀』（最終回）	三友健容	2	7/4（火） 13:30～16:50	2,400円	18
仏教と芸能 —能楽を中心として—	蓑輪顕量	4	8/5（土） 8/6（日） 13:30～16:50 10:30～15:00	4,800円	19
仏教とイスラム教 その遠くて近い宗教関係	保坂俊司	4	8/30（水） 8/31（木） 13:30～16:50 10:30～15:00	4,800円	20
『日本瞥見記』の作品と その創作過程	横山純子	4	9/23（土） 9/24（日） 13:30～16:50 10:30～15:00	4,800円	21
仏教聖典へのいざない	釈 悟震	4	10/22（日） 10/23（月） 13:30～16:50 10:30～15:00	4,800円	22
牟尼の原像 ～ジャイナ教が今に伝えるもの～	矢島道彦	4	11/4（土） 11/5（日） 13:30～16:50 10:30～15:00	4,800円	22
仏教漢文入門	山口弘江	2	8/20（日） 13:30～16:50	2,400円	23
「ブッダ最後の旅」と インド哲学	丸井 浩	4	2018年 3/6（火） 3/7（水）（未定） 13:30～16:50 10:30～15:00	4,800円	24
アメリカ仏教の心理化と瞑想化 —日本仏教への示唆となるか？	田中ケネス	4	2018年 3/10（土） 3/11（日） 13:30～16:50 10:30～15:00	4,800円	25
大乘仏教は どのように誕生したのか	渡辺章悟	2	2018年 3/16（金） 13:30～16:50	2,400円	26

※1 初回は第3金曜日に開催します。 ※2 集中講義は1日に2コマの講義を行います。

講義日は変更になる場合があります。

休講、日程変更などの情報は、中村元記念館ホームページでご確認ください。

<http://www.nakamura-hajime-memorialhall.or.jp/>

2017年度 定期講義 講義内容

みつぎり じ かい
三桐慈海

大谷大学名誉教授
真宗大谷派妙覚寺住職



1 仏教は何を説いているのでしょうか（前期） 〈14回〉

「仏教」とは仏陀（悟った人）釈尊（釈迦族の尊者）が説いた教ということで、またキリスト教徒やイスラム教徒などと対応させて、仏教徒とも使われています。彼らの教徒はその聖典を読誦し、その意義を理解しています。それでは仏教徒としてはどのようなのでしょうか。

日本の仏教は各宗派に分かれて、それぞれの宗派の聖典を所持しています。それは釈尊の悟りを自らに明らかにしようとして工夫を重ねてきた祖師とすべき人に、師事しようとして集まった人々によって、宗派が形成されたからです。従ってどの宗派の教説も釈尊の教えが基盤となっているのです。

釈尊の教えとその思想的展開は「仏教とは何か」ということで『仏教入門』の書物が多く著されています。しかし仏教入門の書を読むための基礎知識が必要であると思われます。そしてその基礎知識こそが仏教徒である人々に理解されなければならないものと考えます。

ここでは仏教は真実の帰依處であるとして、如何に生きるかを教えているものと考え、その基礎を共に学んでいきたいと思えます。

2 仏教経典解説（後期） 〈10回〉

佛教の典籍はどのようなものか、大乘経典である般若経や法華経などは何を説いているのかを解説します。また経典を選んで実際の経文を解説します。

[日 時] 毎週木曜日 13:30～15:00

前期：4/20、4/27、5/11、5/18、5/25、6/1、6/8、6/15、6/22、6/29、7/6、7/13、7/20、7/27

後期：10/5、10/12、10/19、10/26、11/2、11/9、11/16、11/30、12/7、12/14

[テキスト] レジュメ配布

[受講料] 前期：16,800円／後期：12,000円

3 仏典の女性たちのものがたり 〈6回〉

おかだ しんすい
岡田真水

兵庫県立大学名誉教授
日本学会議員
中村元記念館東洋思想文化研究所主任研究員



[講義のねらい]

中村元先生が現代語訳された『尼僧の告白』の表紙にはこう書かれています：「尼僧たちは「二本の指ほどわずかな智慧しかない」とさげすまれた女であった。それ故に、愛憎に苦しみ、醜老・孤独にさいなまれたあげく、ブッダに帰依し真摯な修行によって解脱しえた喜びはいっそう大きかった。安住の心境が切々と伝わる詩句集。」

外面女菩薩 内面夜叉とは言われますが、実際は仏典中に女性の菩薩は二人しかおらず、また女性のままで成仏したもの一人のみです。

本稿では、パーリ原典の現代語訳、大乘仏典中の比丘尼たち、説話の中に見る女性菩薩、法華経に登場する女性たちの物語を紹介して、その懸命な生き方を学んでゆきたいと考えています。

[講義の計画]

1	4月21日	比丘尼たちのものがたり
2	5月12日	ゴーダマ・ブッダの母と妻
3	6月 9日	浄土に女性はいる？いない？
4	7月14日	女菩薩のものがたり
5	10月13日	浄徳夫人のものがたり
6	11月24日	法華経と女性

[日 時] 第2金曜日 13:30～15:00 (4/21、5/12、6/9、7/14、10/13、11/24)

[テキスト] レジュメ配布

[受講料] 7,200円

4 パーリ語入門

〈前期：14回／後期：10回〉

しみずたにぜんぎょう
清水谷善 暁

特定非営利活動法人中村
元東洋思想文化研究所理
事

公益財団法人中村元東
方研究所非常勤研究員



今日、スリランカ・タイ・ミャンマーなどで信奉されている仏教教団が伝持する聖典の原語であるパーリ語について学習します。本講義では、まずパーリ語に関連する仏教学の基礎について確認したのち、文法の学習に入ります。そして文法の学習後には、実際にパーリ語仏典を講読していきます。

[日 時] 毎週金曜日 15:30～17:00

前期：4/21、4/28、5/12、5/19、5/26、6/2、6/9、6/16、6/23、6/30、7/7、7/14、7/21、7/28

後期：10/6、10/13、10/20、10/27、11/10、11/17、11/24、12/1、12/15、12/22

[テキスト] 購入が必要（水野弘元『パーリ語文法』山喜房佛書林、水野弘元『増補改訂パーリ語辞典』春秋社）

[受講料] 前期：16,800円／後期：12,000円

5 「北欧人」あるいはヴァイキングの思惟方法 —もうひとつの歴史・思想・文化— 〈6回〉

かさはらなるひさ
笠原愛古

中村元記念館東洋思想文
化研究所主事補・研究員

中村元記念館学芸員

中央大学政策文化総合研
究所客員研究員



「学界にセンセーションを起こしたのは、北欧で仏教寺院の遺跡が見つかったという報告である」（中村元『インドと西洋の思想交流』）。1954年7月、スウェーデンで小さな仏像が発見されたというニュースは、とあるスリランカの仏教学者によって中村元博士に伝えられました。銀やトルコ石をちりばめた仏像を見られた中村博士は「専門的な解明は、今後の研究に委ねられるべき」であり、また「ヴァイキングのもたらしたものとして、無尽の秘めた歴史をもっているにちがいない」と書き残されました。

というのも、この仏像がつけられた年代、そしてヴァイキングが活動した時代は、ヨーロッパで“中世”と呼ばれている時代です。この“中世”について中村博士は、次のように言われています。「アジアの諸文化圏においては概して文明の多岐性が保存され継承されていた。ところがヨーロッパの中世にはそれが乏しかった」。さらに「日本人ならびにアジア人一般が、教養のあった時代、良き日として思い起こすのに、西洋人は中世という「暗黒時代」として受けとるが、この相違は、文明の多岐性の問題と無関係ではないであろう」とも言われました（中村元『中世思想』）。

しかし現在、ヨーロッパの「中世」像は、かつての「暗黒の中世」と、それに対する理想化された「黄金の中世」を超えて、再定位されつつあります。

また中村博士はスウェーデンで仏伝の歌劇を観覧され、そこに「ヴァイキングによる変容」を見出されました。

この講義では、ヴァイキングと、その背景となる中世ヨーロッパの歴史・思想・文化についてみていくことで、「北欧人」あるいはヴァイキングの特質とは何かを探っていきたいと思います。

[日 時] 第4土曜日 10:20～11:50 (4/22、5/27、6/24、7/22、11/25、12/23)

[テキスト] 購入が必要

イヴ・コア『ヴァイキング 海の王とその神話』創元社、1993

[参考書] B. アルムグレン編『図説 ヴァイキングの歴史』原書房、1990

西川正雄ほか編『角川世界史辞典』角川書店、2001

[受講料] 7,200円

6 観想行入門

〈6回〉

しみずたにぜんけい
清水谷善圭

安来清水寺貫主



仏經の修業は全て観想行といっても過言ではなく、己を見つめ、仏を見つめながら、また念仏を唱え、山を歩きながら仏の姿形、仏の心を思い浮かべ、また悟りに至る道を思い廻らすことを申します。本講座は座禅を中心として様々な修行方法を学んでいただきます。

堅苦しく考えず、仏教を楽しく学び、楽しんで修行をしていただける講座にしていきたいと思っています。是非多くの皆様のお申込みをお待ち申し上げます。

[日 時] 第4木曜日 10:20~11:50 (4/27、5/25、6/22、7/27、10/19、11/23)

[テキスト] レジュメ配布

[受講料] 7,200円

7 宮沢賢治の童話を読む ―信仰をさぐりながら

〈6回〉

しまだ たかすけ
島田隆輔

中村元記念館東洋思想文化研究所研究員



森荘巳池『宮沢賢治の肖像』（津軽書房一九七四）に、「遺された原稿」というエッセイがある。それには、死の間際に、これまで書いてきた作品原稿についていいのこしたことが、記録してある。

弟の清六に、

お前にやるから、これは大事にしてくれ。ぜひとも出したいというのだったら、小さな本屋でもいいから、出させていいよ。話がなかったら、決して無理することはないから、しまっておいてくれ。といったという。

いよいよお題目をとなえはじめたとき、父政次郎には、こういったという。

それらは、みんな私の迷いの跡だんすじゃ。どうなったって、かわないんすじゃ。

そして母イチへは、

この童話は、ありがたい、ほとけさんの教えを、いっしょけんめいに書いたものだんすじゃ。だから、いつかは、きっと、みんなで、よろこんで読むようになるんすじゃ。といったことがあったという。

これまでは文語詩稿を読んできましたが、この母親へのことばが気にかかります。どのような「ほとけさんの教え」がこめられているのか。いくつかの童話を読んでみることにしましょう。

作品については、

「よだかの星」、〔手紙四〕、「ひかりの素足」、「なめとこ山の熊」、「グスコブドリの伝記」

などをかんがえていますが、受講の方たちと相談してきめてゆきたいとおもいます。

[日 時] 第2火曜日 13:30~15:00 (5/9、6/13、7/11、10/10、11/14、12/12)

[テキスト] レジュメ配布

[受講料] 7,200円

8 出雲学概論

〈6回〉

ふじおかだいせつ
藤岡大拙

島根大学短期大学部名誉
教授



古代出雲を中心に、出雲神話、神祇信仰、神社の実態、神仏習合過程等を述べ、続いて大和政権の支配下に入ってから出雲が、どのような歴史を辿るかを、伊勢と出雲の二極の相関関係の中で考え、現在の出雲のよって来る歴史的因子を探りたい。

[日 時] 第2水曜日 10:20~11:50 (5/10、6/14、7/12、10/11、11/8、12/13)

[テキスト] レジュメ配布

[受講料] 7,200円

9 アジアの風土と民族音楽 ~概説と比較文化論の試み

〈6回〉

せこやすお
瀬古康雄

シタール奏者
しまねガムラン主宰
「庭火祭・国際民族音楽祭
IN八雲」実行委員会副
委員長 (企画・演出担当)
しまね多文化共生ネット
ワーク委員 (企画担当)
島根県立大学短期大学部
非常勤講師



アジア各国の伝統的な民族音楽や舞踊はそれぞれの国の自然や文化に深く根ざしているように感じられます。インド、中国、そして日本、それぞれの音楽は、その国の人々に世代を超えて愛され、いわば、「自己の存在了解の仕方」とでも言うべき「風土性」を持っています。この講座は、民族音楽は初めてという人のための入門講座で、インド音楽を中心に、現地で収録したビデオや熊野大社で行われた庭火祭などの日本公演のビデオを鑑賞します。また、仏教伝来の跡をたどって、シルクロード各地の伝統音楽を取り上げ、アジア各地の風土と民族音楽の比較を試みたいと思います。

[日 時] 第2土曜日 13:30~15:00 (5/13、6/10、7/8、10/14、11/11、12/9)

[テキスト] レジュメ配布

[参考書] 特に定めませんが、参考文献を適宜提示するとともに、授業で使用したCDやDVDを閲覧可能にします。

[受講料] 7,200円

10 『無量寿経』を読む

〈6回〉

さいとうしゅんけん
齊藤 舜健

浄土宗総合研究所主任研究員



我が国には、南無阿弥陀仏と口に称えることで救われることを説く仏教の宗派が多くある。浄土系と分類されるそれらの宗派所属の寺院数は約30,100ヶ寺で、全仏教寺院の四分の一強である。公称信者数で見ると全仏教信徒の約半数が浄土系宗派の信者である（平成21年度文化庁統計）。

わが国の浄土系宗派の多くは法然（1133-1212）から始まる。法然がその教えの根拠としたのが『無量寿経』『観無量寿経』『阿弥陀経』という三経典で、浄土三部経と呼ばれる。そのうち『無量寿経』には、阿弥陀仏が仏となった経緯、阿弥陀仏によって救われる理由などが述べられている。これは中国の善導（613-681）や法然の理解を通すことで、わが国の浄土教・阿弥陀仏信仰の根元となった。信徒数の多さとあいまって、この方面でのわが国の精神文化への影響は尽大なものといえよう。一方で、インドの初期大乘仏教以来の菩薩思想、現在他方の諸仏の思想に基づく経典でもある。『無量寿経』は漢訳されて以後、中国において多くの註釈研究があり、わが国でも伝来以後様々に理解されてきた。特に法然以後は浄土系諸宗派の宗義学の立場からの研究の積み重ねがあり、内容の理解はもちろん、語句や構文の理解に到るまで、宗義学的な裏づけが求められたり、後付の解釈が与えられることがあった。その影響は極めて深刻で、それらの理解を離れての『無量寿経』読解は困難な点がある。そこで本講座では、インド仏教と法然の浄土教という二つの方向から『無量寿経』を読み解く。29年度は28年度からの継続で、阿弥陀仏の本願の中、第三十六願から読み始める。テキストの読み込みと併せて、背景にある仏教の教理や文化的な話題も解説しながら、理解を深めてゆきたい。

[日 時] 第3金曜日 13:30~15:00 (5/19, 6/16, 7/21, 10/20, 11/17, 12/15)

[テキスト] レジュメ配布

[参考書] 中村元他『浄土三部経』岩波文庫、藤田宏達『浄土三部経の研究』岩波書店

[受講料] 7,200円

11 東アジアにおける歴史の変遷と仏教

〈12回〉

ふじしまたてき
藤島建樹

大谷大学名誉教授
真宗大谷派圓浄寺住職



昨年度は東アジアの歴史の中でも、大きな盛り上がりを見せた『隋』『唐』帝国の歩みに「王法と仏法（国家と宗教）」の葛藤という情況を中心に考え、仏教の中国化を見てきました。しかし、語るべきこと、考えるべきこと多く、尽くすことができなかつたことは反省点です。

今年度前期は、昨年予告しておいて果たせなかつた日本僧 円仁の貴重な旅行記である『日唐求法巡礼行記』に触れながら唐代末期の様相をみたいと思っています。

後期は、漢民族の唐以後の新しい国づくりと、それに対抗する外民族勢力の南下という激動の時代を、歴史的な事件を中心に考え、仏教界の様相にも配慮を及ぼしてみたいと思います。日本の鎌倉新仏教の展開にも無関係ではない時代と考えますので。

[日 時] 第1, 3, 5土曜日 13:30~15:00
(5/20, 6/3, 6/17, 7/1, 7/15, 7/29, 10/7, 10/14, 11/18, 12/2, 12/16)

11/4 10:20~11:50

[テキスト] レジュメ配布

[受講料] 14,400円

12 能海寛著『世界に於ける佛教徒』を読む

〈6回〉

おかざきひでき
岡崎秀紀

中村元記念館東洋思想文化研究所研究員
学芸員
能海寛研究会会長



2017年度講座では、2016年度講座「チベット仏教を目指した東西の先駆者たち」で取り上げた、チベット仏教求法僧・能海寛(1868-1901、浜田市金城町出身)の業績と思想をさらに掘り下げてみたいと思います。

能海は京都普通教校、慶応義塾、哲学館で開明的な教育を受けました。早い時期から英語をはじめ語学の習得に力を注ぎました。当時の一流の講師から仏教学・東洋哲学などを学んでいます。普通教校時代には英文会(English Composing Society)を組織し『NEW BUDDHIST』を発刊(1888)、慶応義塾時代には英文機関誌『Wisdom and Mercy』(智慧と慈悲)を刊行しています。それは考え方や思想を英語で表現し発表することの大切さに気付いたからでした。最終的には、西藏探検への準備でもありました。失われたサンスクリット経典の忠実なチベット語訳が残っているチベットに入り、仏教経典を入手し、日本語をはじめ英語に翻訳し、仏教を世界に普及させるという大きな目的を持っていました。新仏教徒運動、梵学研究、チベット探検、世界仏教等の意義などをまとめ、哲学館卒業と同時に、仏教思想の啓蒙書ともいうべき『世界に於ける佛教徒』(明治26)を出版しました。

中村元博士は能海の壮絶な生涯と業績に感銘を受けました。能海著『世界に於ける佛教徒』の内容・主張は明治時代としては断然新しいもので、仏教界に問題を投げかけるものであったと述べ、高く評価しておられます。

講座では、能海寛著『世界に於ける佛教徒』を読んで、彼が目指した新仏教、チベット仏教、世界仏教の分野で提起した考え方や思想に迫りたいと思います。寺本婉雅編『能海寛遺稿』(大正7)の内容にも触れます。6回の講義では下記の内容を輪読スタイルで読み、理解を深めます。

第1章 宗教の大革新
第2章 新仏教徒
第3章 宗教学上の仏教
第4章 哲学上の仏教
第5章 歴史上の仏教
第6章 道徳上の仏教(戒律論)
第7章 比較仏教学
第8章 サンスクリット(梵学)
第9章 仏教国の探検
西藏国探検の必要

第10章 仏教徒の連合
第11章 仏蹟回復
第12章 総会議所
第13章 巡礼
第14章 海外宣教
第15章 仏教学校
第16章 仏教翻訳
第17章 本山政論 第一
第18章 本山政論 第二

[日 時] 10月～3月 第4土曜日 13:30～15:00 (10/28、11/25、12/23、1/20*、2/24、3/24)

[テキスト]・レジュメ配布

・購入が必要

能海寛研究会『世界に於ける佛教徒』(復刻版)

[受講料] 7,200円

2017年度 集中講義 講義内容

13 仏典『真理のことは』(『法句経』)を読む(その3)

〈2コマ〉

まえだ せんがく
前田専學

文学博士 Ph.D.
公益財団法人中村元東方
研究所理事長
東方学院長
中村元記念館館長
中村元記念館東洋思想文
化研究所所長
東京大学名誉教授
史跡足利学校座主



仏典は無数と言ってよいほど沢山ありますが、その中でも開祖ゴータマ・ブッダ(釈尊・佛陀)のことは最も近く、おそらく最も有名な仏典は『真理のことは』です。

一昨年の9月の特別講座で読み始めましたが、読み終わることが出来ませんでした。今年度はその続きを読み、読み終わりたいと思っています。前の講義に出席された方々は勿論、出席されなかった方々も大歓迎です。

『真理のことは』が今から2500年も前に活躍されたブッダのことは最も近いとすれば、この科学・技術が発達した21世紀の私たちにはもう通用しないのではないかと思われるかもしれません。確かに21世紀の私たちの多くの方がスマホを持ち、2500年前の人達が神通力とっていた以上の能力を簡単に使うことができるようになりました。人類は科学・技術については驚嘆すべきほどの進歩を成し遂げましたが、しかし人類が現在やっていることは、国境線を張り巡らし、縄張り争いに明け暮れ、弱肉強食の動物たちと余り変わりありません。2500年前の人間と21世紀の人間とは、その人間性においてはほとんど変わりがないように思われます。2500年前のことは、21世紀の人類にもそのまま通用し、思わずハット気づかされることが多いのです。

私が松江校の研究会員の皆さんとこの『ダンマパダ』を読みたいと思ったもう一つの理由は、松江の皆さんに愛されているラフカディオ・ハーンがこの経典を読み、よく知っていたと思われるからです。ハーンは自分の蔵書の中に『ダンマパダ』の英訳を2種類ももっていたばかりではなく、仏教について色々な作品を残していますが、『仏教とは何か』という作品の中でこの『ダンマパダ』の名前をあげており、よく知っていたに違いありません。とすれば、ハーンを愛される松江の方々も是非読んでみたいと思われるに違いないと思ったのです。ハーンは『雪女』や『耳なし芳一』のような作品を書く妖怪作家であるに留まらず、アメリカ時代から、かなり深く仏教を研究し、日本で『ニルヴァーナ』(『涅槃』)という仏教関係の作品を書いた多彩な文豪でした。

[日 時] 4月14日(金) 13:30~15:00, 15:20~16:50

[テキスト]・レジュメ配布

・購入が望ましい

中村元訳『ブッダの真理のことは感興のことは』岩波書店

[受講料] 2,400円

14 仏像の成立と変遷 —スライドを利用して—

〈4コマ〉

いしがみぜんのう
石上善應

大正大学名誉教授
元淑徳短期大学学長
学校法人大乗淑徳学園学
事顧問



インドの仏像を語る時、まずアショーカ王の法勅を語る必要がある。石柱の造形は大きな意味をもつ。ストゥーパの美術の持つ意味はじつに大きい。ストゥーパにあるヤクシャヤクシニーなどの守護神像を眺めても、まだ仏像は現れない。無仏時代を経て急激に仏像が現れる。日本とは違った趣をしながらガンダーラ仏とマトゥラー仏とが姿をあらわす。それでも石仏たちは見事な造形美を展開する。その仏たちを眺めても、蓮台に乗った仏たちすぐには現れず、日本人の印象とは違ったことに気づくのである。と同時に仏像がさまざまに発展するが、現存するものは石窟寺院が中心となっていることに気づく。それに伴い、ヒンドゥ寺院が中心となって残ってきたことを知り、改めて仏教が姿を消して行った歴史上の経過をも知ることとなる。

中国についても語りたいのであるが、残念ながら、ビジュアル版の資料を提示することができないので、お詫びする。むしろ、日本の仏経美術を略述しながら、私が課題にしていることにふれたいと思う。その補助の一端として、拙著『仏像入門』を利用する。拙著の仏像は極めて限られたものではあるが、その仏像がまつられているお寺との関連は、私が課題にしている理由を知ることができ、問題はさまざまなことを教えていて、興味深いものがある。そのことにふれてこそ、日本の仏経の歴史の流れを垣間見ることになる。その角度からの仏像の変遷を知ることでも大事であろう。かつては、仏像といえば、上古から鎌倉までであったものが、やがて江戸時代まで含み、さらに現代では、近世の研究までが研究対象になってきたことは、大きな変化である。そのように変化しつつある仏像の研究を謙虚に受けとめながら、私の考えを述べたいと思う。

『仏像入門』(ちくま学芸文庫) 石上善應著

[日 時] 4月18日(火) 13:30~15:00, 15:20~16:50, 4月19日(水) 10:30~12:00, 13:30~15:00

[テキスト] テキストは講師が用意します

[参考書] 石上善應『仏像入門』ちくま学芸文庫

[受講料] 4,800円

15 禅の思想と文化 —鈴木正三を中心に—

〈4コマ〉

かとう
加藤みち子

中村元東方研究所専任研究員
学習院大学・青山学院大学非常勤講師



禅の教えと文化が日本に大きな影響を与えていることはよく知られています。宗派としての禅は鎌倉時代に曹洞宗と臨済宗が成立し、室町時代には、東山時代に禅文化が発展していきます。しかし、広く日本社会に庶民レベルに至るまで禅の思想と文化が定着したのは、江戸時代です。本講義では、江戸時代初頭に活躍した禅僧、鈴木正三を手掛かりに禅の思想と文化にアプローチします。鈴木正三は、禅僧ですが仮名草子作家でもあります。もとは徳川家に仕えた旗本であります。中年を過ぎてから出家し、世法即仏法一すなわち在家の日常生活に即して仏の教えを生きる、ということ述べたことで知られています。本講義の一つ目の柱として、正三和尚の言葉を手掛かりに生活の中で仏教の教えを生きるということについて考えていきます。また、もうひとつの柱として、禅が日本文化がどのような形で結びつくのかについて江戸時代の仮名草子を中心に見ていきたいと思ひます。

第一回 禅の思想と文化入門

最初に、仏教の中での禅の位置づけ・禅の歴史から始め、歴史的背景や基本事項についてご説明していきます。次に日本における禅思想や禅文化の発展についてご紹介します。

第二回 江戸時代の禅思想と禅文化

ここでは、日本の禅文化や禅思想の発展にとって、江戸時代がどのような時代かをご紹介しますとともに、版本の「十牛図」や仙厓（せんがい）和尚の禅画などを通して、江戸時代の庶民にまで及ぶ、禅文化の広がりについてみていきます。

第三回 鈴木正三和尚に学ぶ「世法即仏法」の生き方

江戸時代初頭に活躍した禅僧、鈴木正三和尚の「世法即仏法」というキーワードを手掛かりとして、禅の生き方や考え方が、どのような形で日常生活に生きるものであるかを見ていきます。

第四回 鈴木正三と一休さん—江戸の仮名草子

一休和尚は室町時代の禅僧ですが、いわゆるとんち話などを通して「一休さん」が広く知られるようになるのは、江戸時代の仮名草子（文学作品）によるものです。ここでは、鈴木正三の『二人比丘尼』・『一休咄（いっきゅうばなし）』などを手がかりに、江戸時代の仮名草子から、禅の文化と思想の広がりについて見ていきます。

[日 時] 5月6日(土) 13:30~15:00, 15:20~16:50, 5月7日(日) 10:30~12:00, 13:30~15:00

[テキスト] レジメ配布

[参考書] 加藤みち子『鈴木正三著作集Ⅰ, Ⅱ』中央公論新社
鈴木大拙『禅と日本文化』岩波書店

[受講料] 4,800円

16 画像で見る仏教と他の世界の宗教とのちがい

〈4コマ〉

よしだ ひろあき
吉田宏哲

大正大学名誉教授
博士（文学）

真言宗智山派宥勝寺住職



人のため、世のために役立つことをなすことは人間としての最高の行為であるが、それでは人のため、世のために役立つ最高の行為とは何であろうか。

それは人々の苦悩を完全に消滅する方法を見出し、さらにその方法を用いて人々の苦悩の消滅のために自己の人生を捧げる行為ではないだろうか。ここで完全にと言ったのは、個々人の個別的、直接的、感覚的な(身心)苦悩や、特殊な(戦争・天災・会社の倒産等による)苦悩だけではなく、物事が変化していくことによって起こる苦悩と、生老病死等の苦(思い通りにならないという意味)という一切に遍満している悲苦も含めてという意味である。この最後の普遍的・根源的な苦を消滅し、その消滅の方法(四諦)を説き、さらに人々におけるその実現を目指したのが仏教の開祖・釈尊である。これによって仏教教団が成立し、その間、苦の消滅(完全な苦の消滅であるから大安楽と云い、思い通りにならないことを超越したから大自在と云う)に関する方法を巡って様々な教義の提示と実践が行われた。声聞乗、縁覚乗、大乘の中観・唯識・如来蔵思想、密教の系列はその思想的展開であり、インド、東南アジア、中国、韓国、日本、チベット地方への伝搬はその地域的な展開である。しかるに釈尊の成仏による解脱涅槃の原事実は実現不可能事とされ、あるいは不可言説とされて、特にわが国では四諦説は小乗仏教の教えとされて、仏教におけるその根源的な意味が真剣に問われなかった。(もう一つ、四諦説が日本人に受けなかった理由は、生老病死は思い通りにならないという意味であると教えられれば直ぐに誰にでも理解できるのに、「苦」と漢訳されたために仏教はペシミズムやニヒリズムであると敬遠された節がある)。

今日、世界に広まる宗教は、キリスト教、イスラム教、ヒンドゥー教など多様であるが、上述のような仏教の立場とはずいぶん違っているように見える。そこで今回の講義ではこれら諸宗教と仏教との違い、及び日本仏教の宗派の違いを画像を用いてやさしく解説したい。

[日 時] 6月5日(月) 13:30~15:00, 15:20~16:50, 6月6日(火) 10:30~12:00, 13:30~15:00

[テキスト] レジュメ配布

[参考書] 中村元『比較思想の軌跡』東京書籍

[受講料] 4,800円

17 『天台四教儀』(最終回)

(2コマ)

みともけんよう
三友健容

立正大学名誉教授
文学博士
法華経文化研究所顧問



二千五百年ほどまえインドのゴータマ・シッダルタ(釈尊)によって始まったおしえは、因果の道理をもととした非常に合理的で分かり易いものだったが、人々の限りない悩み、苦しみなどに対応して、次第に増補され通常八万四千の法門といわれるほど多くなった。

これらのおしえはインドから西域を通して中国に伝わったが、途中で盗賊にあたり、砂嵐などに遭遇したりして多くの経典が失われ、無事たどり着いた経典だけが無秩序に漢訳されたため、どれが釈尊の真意であるのか、説かれた順番はどうであったのか分からなくなり、これらの経典の整理研究運動が起こった。

隋の天台智者大師智顛(538-597)は、この順番を五段階によって説明し仏教の究極的な到達点を円満具足した円教とした。智顛は坐禅を重んじ円教の教理を説いたが、非常に大部であり難解であった。

文化絢爛を誇った唐も907年に滅びると戦乱が相次ぎ唐末五代の戦乱で多くの典籍が灰燼に帰してしまった。中国南部の呉越の忠懿王が国を治めるかたわら『永嘉集』を読んでいいたとき、「同除四住」の言葉に突きあたったが、焼失してしまった『法華玄義』の一節であること以外だれに訊いても解らなかった。そこで高麗と日本に使者を派遣し、『法華玄義』など焼失した書籍を求めたところ、高麗から諦観が多くの書籍をもってやってきて、天台山に数年留まり亡くなった。没後、遺品を納めた筐から光りを発するものがあり開けてみると、『天台四教儀』であったという。

『天台四教儀』は、仏教の入門概説書として多くのひとびとに読まれ継がれ、小論だが非常によく出来たすばらしい天台学の必読書である。しかしながら、いまやこの小論ですら正確に解説できるひとも少なくなってきた。その理由は「アビダルマを知らずして天台を語るは底抜け天台、腰抜け円頓だ」といわれるほど、アビダルマの正確な知識が必要とされ、昔から「唯識3年、俱舍8年」といって、アビダルマ(『俱舍論』)の理解には8年以上の歳月をかけた研鑽が必要とされてきたからである。

今回の講義では、名著『天台四教儀』を通して仏教の深奥な教理を、たっぷり味わっていただき、「同除四住」にも触れる予定である。

[日 時] 7月4日(火) 13:30~15:00, 15:20~16:50

[テキスト] レジュメ配布

[参考書] 三友健容『天台四教儀談義』大法輪閣出版社

[受講料] 2,400円

みの わ けんりょう
袁輪顕量

東京大学大学院教授



日本仏教と芸能の関わりを能楽を中心にして考察する。能楽は最初は猿楽と称されたが、それは、奈良朝期に大陸から伝わった散楽と言われた芸能がもとになったと考えられている。やがてそのような猿楽と、寺院に伝えられた呪師と呼ばれる芸能および農村に伝えられた田楽などが融合して猿楽が大成され、やがて能楽と呼ばれるに至った。その猿楽にとって重要な座が大和四座であったが、彼らは興福寺に行われる重要な行事に出仕する義務が負わされていたのである。

猿楽が芸能の領域に到達するには、観阿弥、世阿弥親子と、世阿弥の娘婿である金春禅竹の登場を待たねばならなかった。世阿弥は曹洞宗寺院と関係があったことが知られ、その主著である『風姿花伝』には、禅的影響を見ることができる。金春禅竹にも禅宗との関わりがあり、達磨禅の影響を受けたことが、『六輪一路之記』から見て取ることができる。世阿弥の主張する幽玄にも、禅の影響を見て取ることが出来るし、また学びの上でも心に響くものが数多くある。一方、金春禅竹は、禅の「本来無一物」の教えに導かれ、芸術論の上でも、仏教に根ざしたものを提示したことが明らかになるであろう。とくに中世の時代の芸術論には独特のものが有り、亡霊が語るという興味深い演目が数多く制作されていった。禅竹の能楽には亡霊が主人公となるものが多く、一つの特徴となっている。日本の能楽に与えた仏教の影響と題し、講義を行う予定である。

[日 時] 8月5日(土) 13:30~15:00, 15:20~16:50, 8月6日(日) 10:30~12:00, 13:30~15:00

[テキスト] レジュメ配布

[受講料] 4,800円

19 仏教とイスラム教 その遠くて近い宗教関係

〈4コマ〉

ほさかしゅんじ
保坂 俊司

中央大学大学院教授



無慈悲なテロやISの蛮行で、一層イスラム教への日本人のイメージは、悪くなってしまいました。

また、自らを絶対視し、他者の生命を軽んずるかのようなイスラムという宗教への恐怖あるいは嫌悪が、世界中に広がっていることも事実です。

確かに現在の国際社会の混乱の背景には、イスラム独自の教えに起因することが多々ありますが、しかし、それは、決してイスラムそのものではありません。それは戦前の日本が「国体神道」による「聖戦」を唱えて戦争を行ったからと言って、それが神道そのものである、と言えないのと同様な理屈です。このように言うといはイスラム最真のそしりを受けるかもしれませんが、しかし、このような理解も実は、今回の一部ではありますが、過激派イスラムの暴走の背景と通じるところがあるのです。

いずれにしても、一部のイスラムをそのように極端な解釈にはしらせた状況を理解する必要があるのです。

そして、それこそ現在の国際社会の一般論に欠けているところです。もちろんイスラム側にもそれは言えますが。

いずれにしても、両者の溝は憎悪と無理解で深まるばかりです。そしてそこには、他者への尊敬と生命を尊重する心がかけているといえます。

というわけで公正に、そして広くかつ温かいところでイスラムを知ることが、現在社会に求められています。とはいえ、実は、イスラムそのものを直接知ることは、日本人には特に難しいのです。というのも、日本人が慣れ親しんでいる仏教や神道とイスラムは構造的にかなり異なるからです。

そこで、日本人が、イスラムの言説や文化を理解するには、ちょっと回り道ですが、仏教との比較が効果的です。

というわけで、本講座ではイスラムを理解するために、仏教との比較を行うという方法を取ります。

詳しくは、拙著『イスラムの拡大と格差社会』プレジデント社、2015年をご参照ください。

[日 時] 8月30日(水) 13:30~15:00, 15:20~16:50, 8月31日(木) 10:30~12:00, 13:30~15:00

[テキスト] レジューメ配布

[参考書] 保坂俊司『ブッダとムハンマド』サンガ

[受講料] 4,800円

20 『日本瞥見記』の作品とその創作過程

〈4コマ〉

よこやまじゅんこ
横山 純子

中村元記念館東洋思想文化研究所研究員
島根県歯科技術専門学校
非常勤講師



ラフカディオ・ハーン (Lafcadio Hearn, 1850-1904)は、1890年4月4日に来日し、来日第一作として1894年に『日本瞥見記』(*Glimpses of Unfamiliar Japan*)を出版しました。この講座では『日本瞥見記』に関する手紙、メモ帳、原稿、記事を辿り、またハーンのアメリカ時代の新聞記者としての経験等を踏まえながら、その創作過程を総合的に探りたいと思います。そしてハーンの異文化との遭遇がどのように作品化され、それを通して彼の表現がどのように変化していったのか、さらにそれが彼の霊的世界にどのように結晶化されていったのかを複合的に考察したいと思います。

1. ラフカディオ・ハーンの来日前後
2. 「江の島行脚」を中心に
3. 「神々の国の首都」を中心に
4. 「伯耆から隠岐へ」を中心に

参考資料： 横山純子博士（学術）論文『訪日後のハーンの創作過程と技法—『日本瞥見記』を中心に』

〈主要業績〉

- ① 「ハーンの「焼津にて」にみる海体験と霊的世界の深淵」
『イギリス イメージ横断—表象と文学』（春風社、2011）
- ② 「「神々の国の首都」創作過程の一考察—取材ノートを読む」
『ユリイカ』第27巻4号（青土社、1995）
- ③ 「ラフカディオ・ハーンの『チタ』における海の意味」
『欧米文化研究』第11号（広島大学、2004）

[日 時] 9月23日(土) 13:30~15:00, 15:20~16:50, 9月24日(日) 10:30~12:00, 13:30~15:00

[テキスト] レジユメ配布

[受講料] 4,800円

21 仏教聖典へのいざない

〈4コマ〉

しゃく 積
ごしん 悟震

中村元記念館東洋思想文化研究所副所長
文学博士
スリランカ国立ペーラデーニヤ大学客員研究員



【講義の内容】

「八万大藏経」とも言われるほど膨大な仏教の経典。どうして仏教はこれほど経典が多いのか。その理由や真の意味はどこにあるのか。またわたくしどもは、どれだけの経典の内容や意味を理解しているのであるだろうか、等々多くの疑念に対する紐を解くと同時に、われわれの日常生活文化に馴染んでいる仏教をより身近に感じさせ、摩訶不思議なる心の安らぎを覚えさせる講義であって欲しいと願っております。

そこで本講義では、長い間、もっとも難解で親しみやすすくない仏教の聖典をわたくしどもが親しみやすくなるように日頃、心血を注いだ中村元博士の数多くの珠玉の教説により『スッタニパータ(経集)』、『ダンマパダ(法句経)』、『般若心経』、『華嚴経』、『法華経』、『維摩経』、『勝鬘経』、『父母恩重経』、『観音経』、『金剛経』など著名な仏教聖典を、説話やエピソードを交えてつづられた『仏教経典散策』を主要テキストとして、より分かり易く、担当講師独自の目線にて仏教聖典への思惟方法を踏まえて、そのいざないを昨年度につづいて順次講じてまいります。

【本講義進捗について】

数多くの仏教経典のなかで、仏教伝来約二千有余年という長い歴史を有する日本仏教において親しまれつつ、地球上何処の民族も有し得ない日本人特有の文化並びに人間形成を成し遂げた本テキストに挙げられた仏教経典の数々に関わる深層の真相を全地球的観点、とりわけ仏教発祥の地、インドおよび漢字文化圏である、中国、朝鮮半島、日本に至るまでを概観するのも、本講義の特徴とも云うべきである由、本年度においても本テキストに挙げられている経典を順次継続的に進捗されることを念頭において企画された講座であることを申し上げます。

[日 時] 10月22日(日) 13:30~15:00, 15:20~16:50, 10月23日(月) 10:30~12:00, 13:30~15:00

[テキスト] 購入が必要

中村元『仏教経典散策』東京書籍

[受講料] 4,800円

22 牟尼の原像 ~ジャイナ教が今に伝えるもの~

〈4コマ〉

やじまみちこ
矢島道彦

駒澤大学仏教学部客員教授
日本仏教教育学会会長
曹洞宗長林寺住職



ジャイナ教の教団のなかで僧侶はムニとかサードウと呼ばれていますが、かれら出家者の姿には古代インドの宗教世界を彷彿とさせる何かがあるように思われます。とくに裸行派(空衣派)の僧侶は、アヒンサー(不殺生)や無所有の教えを今も厳格に守り続けており、在俗の信徒たちから絶大な尊敬を集めています。ジャイナ教の研究を専門とする私には、そこにかつてムニと呼ばれた人々(その中には釈迦牟尼仏もきっと含まれます)の原像が見え隠れしているようにも思われます。何が仏教とジャイナ教を分けたのでしょうか、また、なぜ仏教はインドで滅びたのにジャイナ教は生き残ったのでしょうか。今回の講義では、こうした問題を念頭におきながら、仏教とジャイナ教を比較してみたいと思います。図像資料も用いて、みなさんと楽しく学びながら、時空を超えた古代インドの宗教世界にみなさんをお連れしたいと思います。

[日 時] 11月4日(土) 13:00~15:00, 15:20~16:50, 11月5日(日) 10:30~12:00, 13:30~15:00

[テキスト] プリント資料配布

[受講料] 4,800円

やまぐちひろえ
山口弘江
駒澤大学講師



仏教の大事な教えは「お経」の中に説かれています。しかし、漢字が羅列した経文からその意味を読み取ることは簡単ではありません。そのため、書店には様々な解説本が並び、最近では「超訳」といわれるような大胆な意識も人気がありますが、誰かの解釈にたよらず、自分の力で読んでこそ、よりいっそう「お経」への理解が深まっていくものではないでしょうか。本講義では、漢訳仏典（漢文に翻訳された仏教文献）を読むために必要となる基礎的な知識や方法を学びます。講義の主な内容は以下の通りです。

(1) 漢訳仏典とは何か

そもそも「お経」とはどういう文献をいうのでしょうか。その定義や特徴をふまえた上で、インド文化圏の諸言語で記された仏典が中国文化圏に伝えられ、翻訳された歴史を概観し、今日我々が目に触れる漢訳仏典がどのようにして成立したのかを学びます。

(2) 仏教漢文の特質について

漢訳経典は漢文で書かれていますが、翻訳されたものであるため、一般的な漢文とは異なる表現が多々見られます。そのため、講読にあたっては一般的な漢文法だけでなく、仏教漢文に特有のルールを理解する必要があります。具体例を検討しつつ、その特質を把握します。

(3) 漢訳仏典を読む

(2) で学んだ内容の復習として、ある「お経」を講読します。時間の関係上、全文を精読することはできませんが、ポイントとなる部分を中心に、受講者の皆さんにも書き下しや現代語訳に挑戦してもらいます。

(4) 解説と質疑応答

講読した「お経」についての最近の研究成果や、文化や風習に与えた影響について学びます。最後に皆さんからの質問にお答えします。

*受講にあたって特別な予習は必要ありませんので、これまであまり仏典に触れたことがない方や、歴史や漢文・漢字に興味のある中高生の受講も歓迎します。

*当日は講読がメインとなりますので、漢和辞典を持参してください。新たに購入する場合は、『全訳 漢辞海』第四版（三省堂、2016年）を推奨します。

[日 時] 2018年8月20日(日) 13:30~15:00, 15:20~16:50

[テキスト] レジュメ配布

[受講料] 2,400円

24 「ブッダ最後の旅」とインド哲学

〈4コマ〉

まるい ひろし
丸井 浩

東京大学大学院人文社会
系研究科 教授

公益財団法人 中村元東
方研究所 常務理事
日本学術会議連携会員



ブッダ（釈迦牟尼世尊）が80歳で入滅する前後の場面や、ブッダの遺誠をまとめた経典は、一般に涅槃経と呼ばれています。南方の仏教諸国（スリランカおよびミャンマー、タイなどの東南アジア諸国）に現在まで伝わるパーリ語仏典では、『マハー・パリニッバーナ・スッタタ』と呼ばれる経がそれであり、中村元博士はその経典に「ブッダ最後の旅」という素敵なタイトルを付けられました。博士の日本語訳が岩波文庫として出版されています。また漢訳された初期仏典の中にも、涅槃経に相当する経典がいくつかあり、なかでも『遊行経』は比較的良好に知られています。

昨年、4月～9月の半年間、NHK Eテレ「こころの時代」に、6回にわたって出演する機会を得ました。この講義では、その時に番組でお話し、あるいはガイドブックに書いた内容を踏まえて、『ブッダ最後の旅』という経典の持つ魅力を皆さんにご紹介するとともに、私の専門であるインド哲学の観点から見て、この経典の内容や、ブッダの説法には、どのような特徴があるかを考えてみたいと思います。

この混迷の時代にあつて、さまざまな対立を乗り越えるための数々の知恵を、ブッダの教えから、あるいは仏教的な考え方から、学びとる努力が今、私たちに求められていると思います。また、ブッダの入滅をテーマにしたこの経典を題材にしながら、生と死の問題を、あらためて皆さんと考えてみるつもりです。

なおこの番組の一部は、授業でも映像でご紹介する予定。講義のテキストとしては、番組用に作成したガイドブックをご購入頂けると幸いです。2017年10月～2018年3月に再放送される予定なので、2017年9月には入手可能となるはずで

[日 時] 2018年3月6日(火) 13:30～15:00, 15:20～16:50, 3月7日(水) 10:30～12:00, 13:30～15:00

[テキスト] 購入が必要

丸井浩 『「ブッダ最後の旅」に学ぶ』 NHK出版

[受講料] 4,800円

25 アメリカ仏教の心理化と瞑想化 —日本仏教への示唆となるか？

〈4コマ〉

たなか

田中ケネス

武蔵野大学教授
武蔵野大学仏教教育部長
日本仏教心理学会会長
国際真宗学会会長



アメリカの仏教徒は、この四十年間で十七倍も増え、全米人口の1.2パーセントに当たる350万人となっている。彼らに加え、仏教徒とは断言しないが仏教的行動をとる「仏教共感者」（所謂、ナイトスタンド・ブディスト、Nightstand Buddhist）や仏教に強く影響された人々を含めば、全米人口の10パーセント（約3000万人）という驚く数になる。

この仏教徒の伸びの理由に、キリスト教等から仏教へ改宗した人々の増加がある。その中には、俳優リチャード・ギア、歌手ティーナ・ターナー、映画監督オリバー・ストーンもいる。ゴルフ選手タイガー・ウッズも仏教徒。また、アップル社の創設者、故スティーブ・ジョブズは熱心な仏教共感者であった。

多くのアメリカ人が仏教に惹かれる理由は、仏教にはメディテーション（瞑想）と、その心理学的解釈にある。彼らにとって仏教は、葬式や法事ではなく、「日常の目覚め」を実現させてくれるものなのである。つまり、従来の教会で説教を聞いて「信じる宗教」ではなく、自らが瞑想し、仏教の心理学的解釈を「糸口」に、日常の目覚めに基づく心の安穩を求める、「目覚める宗教」に惹かれるのである。

仏教のサティ（念）という瞑想法に基づくマインドフルネス瞑想は、今や、アメリカ社会でブームを引き起している。彼らは、全国で一日に何らかの瞑想を行なう約1000万人に含まれる。このマインドフルネス瞑想は、宗教の枠を超え、医療、心理療法、教育、福祉、産業、軍隊、スポーツ等、様々な分野で採用され、更に、ストレス軽減以外に集中力、免疫力、鬱の再発防止等にも有効という科学的論文が多数発表されている。

心理学と仏教の関係は、アメリカでは長い歴史がある。二〇世紀の初頭、ハーバード大学のウィリアム・ジェームズ初代心理学教授が彼の講義に、スリランカの仏教伝道者が聴講しているのに気がつき、「仏教こそ二十五年後に、皆が勉強することになる心理学です。」と発言したそうだ。あれから百年、仏教は心理学と瞑想法を通して、米国で現代社会に応じて大きく発展してきた。

このすさまじい仏教の伸びの現状と原因を明らかにし、日本仏教が直面する課題の改善策へのヒントを考えることにしたい。アメリカ仏教の歴史は、日本の10分の1しかないが、最初から「現代」宗教であったことが、日本仏教にとって参考になることが期待される。

[日時] 2018年3月10日(土) 13:30~15:00, 15:20~16:50, 3月11日(日) 10:30~12:00, 13:30~15:00

[テキスト] 購入が必要

[受講料] 4,800円

26 大乘仏教はどのように誕生したのか

〈2コマ〉

わたなべしょうご
渡辺 章悟

東洋大学文学部教授



大乘仏教の起源と成立の問題を、最新の学説に基づきながらわかりやすく解説します。特に大乘仏教の代表的経典である、般若経・維摩経・法華経・華嚴経の一部を、翻訳を通して実際に読みながら、①経典の成立、②大乘の特徴とその思想、③法滅と授記、④悟りの智慧の展開、⑤三度の転法輪、⑥菩薩思想などを順次に検証してゆきます。これらのテーマを分析しながら、大乘仏教の概要とその思想の全体像を理解できるように努めます。

以下は二回の講義の予定です。

第一講目「大乘仏教の起源と発展」

大乘仏教の姿をあきらかにするために、その特徴をブツダ観、世界観、教団論、救済方法などについて、歴史的、思想的、文化的側面からスケッチします。特に、大乘以前のブツダ観を知るために〈然灯仏授記〉の説話をテーマにとりあげ、この説話が大乘の仏・菩薩・授記・誓願などの教えに影響を与えたことを、映像などを使いながら説明します。

第二講目「法滅と授記の思想」

大乘経典に共通に説かれる〈法滅句〉を取り上げ、この思想が初期仏教の〈正しい教えの衰退（正法の滅）あるいは、像法の発生と正法の隠没という教えに起源があることを述べる。次いで部派仏教から大乘仏教に至るまで、この教えがどのように展開して大乘仏教の核心になっていったのかを考察します。

[日 時] 2018年3月16日(金) 13:30~15:00, 15:20~16:50

[テキスト] レジユメ配布

[参考書] 高崎直道監修『大乘仏教の誕生（シリーズ大乘仏教2）』春秋社

[受講料] 2,400円

2017年度 東方学院松江校 年間スケジュール

4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
1 土	1 月	休館日	1 土	三桐②	1 木	藤島②	1 土	火	1 金	1 日	1 水	1 金	1 土	1 水	1 日	1 金	1 土	1 月	1 木	1 日	1 金	1 土	1 月
2 日	2 火	清水谷善暁③	2 日	清水谷善暁③	2 水	休館日	2 日	休館日	2 土	2 月	2 木	2 土	2 日	2 水	2 日	2 土	2 日	2 火	2 休館日	2 金	2 休館日	2 土	2 金
3 月	3 水	藤島②	3 月	休館日	3 木	休館日	3 月	休館日	3 日	3 火	3 金	3 日	3 火	3 土	3 日	3 火	3 日	3 水	3 休館日	3 土	3 休館日	3 土	3 土
4 火	4 木	【集中】三友	4 日	【集中】三友	4 金	休館日	4 日	休館日	4 日	4 月	4 土	4 日	4 火	4 土	4 日	4 火	4 日	4 木	4 休館日	4 日	4 休館日	4 日	4 日
5 水	5 金	【集中】吉田	5 水	【集中】吉田	5 土	【集中】裴輪	5 水	【集中】裴輪	5 火	5 木	5 土	5 火	5 木	5 土	5 日	5 火	5 土	5 金	5 休館日	5 月	5 休館日	5 月	5 休館日
6 木	6 土	【集中】加藤	6 木	【集中】加藤	6 日	【集中】裴輪	6 金	【集中】裴輪	6 水	6 土	6 日	6 土	6 日	6 金	6 水	6 土	6 日	6 土	6 火	6 火	6 火	6 火	6 火
7 金	7 日	【集中】加藤	7 金	清水谷善暁③	7 月	休館日	7 土	休館日	7 木	7 日	7 土	7 木	7 日	7 土	7 日	7 木	7 日	7 土	7 日	7 水	7 水	7 水	7 水
8 土	8 月	休館日	8 土	三桐②	8 火	瀬古②	8 土	火	8 金	8 日	8 土	8 日	8 土	8 金	8 日	8 土	8 日	8 土	8 休館日	8 木	8 木	8 木	8 木
9 日	9 火	島田②	9 日	岡田②	9 水	休館日	9 月	休館日	9 土	9 日	9 土	9 土	9 日	9 土	9 日	9 土	9 日	9 土	9 休館日	9 金	9 金	9 金	9 金
10 月	10 水	藤岡①	10 月	瀬古②	10 土	休館日	10 日	休館日	10 日	10 火	10 土	10 日	10 火	10 土	10 日	10 火	10 土	10 日	10 水	10 土	10 土	10 土	10 土
11 火	11 木	三桐②	11 火	島田②	11 日	島田②	11 土	休館日	11 日	11 水	11 土	11 日	11 水	11 土	11 日	11 水	11 土	11 日	11 木	11 日	11 日	11 日	11 日
12 水	12 金	岡田②	12 水	清水谷善暁③	12 日	藤岡①	12 土	休館日	12 日	12 火	12 土	12 日	12 火	12 土	12 日	12 火	12 土	12 日	12 金	12 月	12 月	12 月	12 月
13 木	13 土	瀬古②	13 木	島田②	13 日	三桐②	13 土	休館日	13 日	13 水	13 土	13 日	13 水	13 土	13 日	13 水	13 土	13 日	13 土	13 火	13 火	13 火	13 火
14 金	【集中】前田	14 日	藤岡①	14 水	岡田②	14 土	休館日	14 日	14 日	14 水	14 土	14 日	14 水	14 土	14 日	14 水	14 土	14 日	14 土	14 火	14 火	14 火	14 火
15 土	ガイダンス	15 月	三桐②	15 土	藤島②	15 日	休館日	15 日	15 日	15 木	15 土	15 日	15 木	15 土	15 日	15 木	15 土	15 日	15 月	15 月	15 月	15 月	15 月
16 日	16 火	16 日	16 日	16 日	16 日	16 日	16 日	16 日	16 日	16 日	16 日	16 日	16 日	16 日	16 日	16 日	16 日	16 日	16 日	16 日	16 日	16 日	16 日
17 月	休館日	17 月	17 月	17 月	17 月	17 月	17 月	17 月	17 月	17 月	17 月	17 月	17 月	17 月	17 月	17 月	17 月	17 月	17 月	17 月	17 月	17 月	17 月
18 火	【集中】石上	18 日	18 日	18 日	18 日	18 日	18 日	18 日	18 日	18 日	18 日	18 日	18 日	18 日	18 日	18 日	18 日	18 日	18 日	18 日	18 日	18 日	18 日
19 水	【集中】石上	19 日	19 日	19 日	19 日	19 日	19 日	19 日	19 日	19 日	19 日	19 日	19 日	19 日	19 日	19 日	19 日	19 日	19 日	19 日	19 日	19 日	19 日
20 木	三桐②	20 日	20 日	20 日	20 日	20 日	20 日	20 日	20 日	20 日	20 日	20 日	20 日	20 日	20 日	20 日	20 日	20 日	20 日	20 日	20 日	20 日	20 日
21 金	岡田②	21 日	21 日	21 日	21 日	21 日	21 日	21 日	21 日	21 日	21 日	21 日	21 日	21 日	21 日	21 日	21 日	21 日	21 日	21 日	21 日	21 日	21 日
22 土	清水谷善暁③	22 日	22 日	22 日	22 日	22 日	22 日	22 日	22 日	22 日	22 日	22 日	22 日	22 日	22 日	22 日	22 日	22 日	22 日	22 日	22 日	22 日	22 日
23 日	笠原①	23 日	23 日	23 日	23 日	23 日	23 日	23 日	23 日	23 日	23 日	23 日	23 日	23 日	23 日	23 日	23 日	23 日	23 日	23 日	23 日	23 日	23 日
24 月	休館日	24 日	24 日	24 日	24 日	24 日	24 日	24 日	24 日	24 日	24 日	24 日	24 日	24 日	24 日	24 日	24 日	24 日	24 日	24 日	24 日	24 日	24 日
25 火	清水谷善暁①	25 日	25 日	25 日	25 日	25 日	25 日	25 日	25 日	25 日	25 日	25 日	25 日	25 日	25 日	25 日	25 日	25 日	25 日	25 日	25 日	25 日	25 日
26 水	清水谷善暁③	26 日	26 日	26 日	26 日	26 日	26 日	26 日	26 日	26 日	26 日	26 日	26 日	26 日	26 日	26 日	26 日	26 日	26 日	26 日	26 日	26 日	26 日
27 木	清水谷善暁①	27 日	27 日	27 日	27 日	27 日	27 日	27 日	27 日	27 日	27 日	27 日	27 日	27 日	27 日	27 日	27 日	27 日	27 日	27 日	27 日	27 日	27 日
28 金	清水谷善暁③	28 日	28 日	28 日	28 日	28 日	28 日	28 日	28 日	28 日	28 日	28 日	28 日	28 日	28 日	28 日	28 日	28 日	28 日	28 日	28 日	28 日	28 日
29 土	休館日	29 日	29 日	29 日	29 日	29 日	29 日	29 日	29 日	29 日	29 日	29 日	29 日	29 日	29 日	29 日	29 日	29 日	29 日	29 日	29 日	29 日	29 日
30 日	休館日	30 日	30 日	30 日	30 日	30 日	30 日	30 日	30 日	30 日	30 日	30 日	30 日	30 日	30 日	30 日	30 日	30 日	30 日	30 日	30 日	30 日	30 日
31 月	休館日	31 日	31 日	31 日	31 日	31 日	31 日	31 日	31 日	31 日	31 日	31 日	31 日	31 日	31 日	31 日	31 日	31 日	31 日	31 日	31 日	31 日	31 日

講義時間 ①10:20~11:50 ②13:30~15:00 ③15:30~17:00

東方学院松江校 2017年度お申し込みと受講料のご案内

●お申し込みと受講料

- 新規入会者は入会金¥10,000、継続会員は継続事務費¥5,000と、お申し込み講座の受講料総額をお振り込みください。
- 各講義の受講料は、講義一覧（6・7ページ）でご確認ください。
- 過去に入会金を納入された方は、継続会員となります。

新規入会者	入会金 10,000円+受講料
継続会員	継続事務費 5,000円+受講料

- 講義によってはテキスト代が別途必要な場合があります。
- 納入された受講料は原則としてお返しできません。ただし、次の場合に限りお返しいたします。
 - 受講申込みをされた講座が、講師や当校のやむを得ない事情により実施できなかった場合。
 - 受講申込みをされた講座が休講になり、補講を実施できなかった場合の休講分の受講料。
- 「中村元記念館友の会」会員の方は、入会金または継続事務費が1割引となります。詳しくは32ページをご覧ください。

●受講申し込みについて

- 以下のいずれかの方法でお申し込みください。（お電話ではお申込みいただけません。）
- 郵送またはFAXの場合の申込手続きは、ご入金された時点で完了いたします。

◆受付窓口でのお申込み

受講申込書（29ページ）にご記入のうえ、入会金と受講料を添えてご提出ください。
（窓口での受付時間 10:00～17:30 休館日(月曜日)を除く）

◆郵送またはFAXでのお申込み

1. 受講申込書（29ページ）にご記入のうえ、下記まで送付ください。
〈郵送の場合〉〒690-1404 島根県松江市八束町波入2060 中村元記念館
〈FAXの場合〉FAX番号 0852-76-9693
2. 入会金あるいは継続事務費と受講料を、申込日から1週間以内に下記の口座までお振込みください。
 - 振込手数料はご負担ください。
 - 振込のご依頼人の名前が、申込書と同じ名前であることをご確認ください。
 - 振込の場合、領収書は発行いたしません。振込の際に発行される控えを大切に保管してください。
《振込先》■ゆうちょ銀行 ※手引きに添付の払込票にて下記振込口座宛にご入金ください。
口座番号 01370-8-91228
加入者名 中村元記念館
■山陰合同銀行 松江駅前支店（店番号004）
口座番号 普通3694628
口座名 特定非営利活動法人中村元記念館東洋思想文化研究所

●その他

- 松江校では、各定期講義の第1回目、第2回目の講義のいずれかに限り、体験受講を実施しております。体験受講を申し込まれた方には、講義に必要なテキストやレジュメなどを貸与いたします。（体験用テキスト等はお返しさせていただきます。）
- 2017年度 各講座の会場（教室）が改修工事のため、隣接の八束公民館になる場合がございます。会場につきましてはその都度ご案内いたします。
- 原則として受講のお申込みは1か月前までと致します。それ以降にお申込みされた場合、テキスト・会場準備などの都合で受講をお断りする場合がございます。予めご了承ください。

2017年度 東方学院松江校受講申込書

◆ 太枠内をご記入ください。

申込日	平成 年 月 日	会員申込区分（該当欄に☑を入れてください） ※過去に松江校研究会員になったことのある方は継続扱いとなります。 ※友の会会員は1割引となります。詳しくは32ページをご覧ください。		
フリガナ				
氏名	男・女	<input type="checkbox"/> 新規 入会金 10,000円	<input type="checkbox"/> 新規 (友の会) 入会金 9,000円	
生年月日	年 月 日	<input type="checkbox"/> 継続 継続事務費 5,000円	<input type="checkbox"/> 継続 (友の会) 継続事務費 4,500円	
住所	〒 -			
電話番号	- -	携帯電話	- -	
FAX番号	- -	E-mail		

◆ 受講を希望する講座の太枠内に○をご記入ください。

	番号	講義名	講師名	受講希望講座	受講料	事務局記入欄		
						受領日	担当	データ
定期	1	仏経は何を説いているのでしょうか。(前期)	三桐 慈海		16,800円			
	2	仏教経典解説(後期)	三桐 慈海		12,000円			
	3	仏典の女性たちのものがたり	岡田 真水		7,200円			
	4	パーリ語入門	清水谷善暁		前期:16,800円 後期:12,000円			
	5	「北欧人」あるいはヴァイキングの思惟方法	笠原 愛古		7,200円			
	6	観想行入門	清水谷善圭		7,200円			
	7	宮沢賢治の童話を読む	島田 隆輔		7,200円			
	8	出雲学概論	藤岡 大拙		7,200円			
	9	アジアの風土と民族音楽	瀬古 康雄		7,200円			
	10	『無量寿経』を読む	齊藤 舜健		7,200円			
	11	東アジアにおける歴史の変遷と仏教	藤島 建樹		14,400円			
	12	能海寛著『世界に於ける佛教徒』を読む	岡崎 秀紀		7,200円			
集中	13	仏典『真理のこぼれ』(『法句経』)を読む(その3)	前田 専學		2,400円			
	14	仏像の成立と変遷	石上 善應		4,800円			
	15	禅の思想と文化	加藤みち子		4,800円			
	16	画像で見る仏教と他の世界の宗教とのちがひ	吉田 宏哲		4,800円			
	17	『天台四教儀』(最終回)	三友 健容		2,400円			
	18	仏教と芸能	蓑輪 顕量		4,800円			
	19	仏教とイスラム教 その遠くて近い宗教関係	保坂 俊司		4,800円			
	20	『日本警見記』の作品とその創作過程	横山 純子		4,800円			
	21	仏教聖典へのいざない	釈 悟震		4,800円			
	22	牟尼の原像	矢島 道彦		4,800円			
	23	仏教漢文入門	山口 弘江		2,400円			
	24	「ブッダ最後の旅」とインド哲学	丸井 浩		4,800円			
	25	アメリカ仏教の心理化と瞑想化	田中ケネス		4,800円			
	26	大乘仏教はどのように誕生したのか	渡辺 章悟		2,400円			

キリトリ線

	(ア)	受講料合計	円			
(イ) いずれかをお選びください		入会金(新規の方)	10,000円			
		入会金(新規の方・友の会会員)	9,000円			
		継続事務費(継続の方)	5,000円			
		継続事務費(継続の方・友の会会員)	4,500円			
	(ア) + (イ)	お支払額合計	円			

《送付先》

〒690-1404 島根県松江市八束町波入2060 中村元記念館
FAX : 0852-76-9693

※申込用紙を郵送・FAXで送られる場合、申込み手続きはご入金された時点で完了いたします。
申込日から1週間以内にご入金ください。

受付	データ	備考
/	/	

●中村元記念館ボランティアサポーター募集

中村元記念館では、当館の事業にご協力いただける「ボランティアサポーター」を募集中です。ご都合のいい時間に、ご自分の持ち味や興味を活かしてボランティアしてみませんか。

詳しくは中村元記念館までお気軽にお問い合わせください。

〈活動内容の例〉

- ・蔵書整理
- ・イベント運営
- ・附属研修施設の環境整備
- ・チラシ等発送業務
- ・語学（翻訳/通訳）



●中村元記念館東洋思想文化研究所研究員募集

中村元記念館東洋思想文化研究所の研究員を募集いたします。当研究所は、中村元記念館に所蔵されている中村元博士の約34,000冊の蔵書・資料を活用して、博士が開拓された学問の道をさらに深く探究し、山陰地域の学術・文化の振興に寄与することを目的とします。

〈活動内容〉

- ・隔年発行予定の当館の研究紀要に研究発表をする。
- ・可能であれば、関連する学会で発表をする。
- ・山陰における人文科学分野の研究を振興する。

〈応募資格〉

- ・人文科学分野の修士号を有する方、または修士号と同等の資格（研究業績等）を有する方。
- ・中村元記念館東洋思想文化研究所の理念に賛同し、中村元記念館を支え、発展させていく熱意のある方。

〈応募方法〉

以下の書類を中村元記念館まで郵送してください。採用に当たっては所長による面接を行います。

- ・履歴書（功績書またはそれに準じるものを添付する）
- ・研究課題書

〈応募締切〉

2017年3月31日(金) 必着

〈待遇〉

- ・当館所蔵の図書・資料を管理者の同意のもとご活用いただけます。
- ・研究助成金等は当分の間支給いたしません。
- ・研究員に対して会費等の徴収をすることはありません。

中村元記念館東洋思想文化研究所

所長	前田	專學
副所長	釈	悟震
主事	清水谷	善曉
主事補	笠原	愛古

中村元 記念館 友の会 入会のご案内

中村元記念館では、東洋思想の巨星 中村 元(なかむら はじめ)博士の偉業を伝え、34,000冊を超える博士の蔵書の調査・整理、収蔵品の管理、東方学院松江校運営など、幅広い活動を行っております。当館の活動をご理解、ご支援いただき、また、会員同士の親睦を図る友の会に入会いただきますようご案内いたします。

年会費 年間2千円(毎年3月末日が有効期限となります)

- 会員特典**
- 「中村元記念館友の会」会員証を発行します。
 - 中村元記念館の「中村元記念館通信」をお送りします。
 - 東方学院松江校入会金、継続事務費10%OFFにします。
 - 記念館で販売する書籍・グッズの割引をします。
 - 提携施設の入場料が割引料金になります。
 - 友の会限定交流会のご案内をいたします。

**入会の
お申込み
方法** 次ページの払込取扱票(入会申込書)に、住所、氏名、電話番号、金額をご記入の上、点線に沿って切り取り、お近くの郵便局にお払込みください。(年会費:2,000円) 会費ご入金日より会員となります。会員継続は自動更新となります。退会を希望される際は事務局までご連絡ください。

◆ 中村元記念館友の会 規約

(名称)第1条 この会員制度は、中村元記念館友の会(以下「友の会」という。)(事務局)第2条 友の会事務局は、中村元記念館に置く。(目的)第3条 友の会は、館の活動を支援して、会員相互の親睦を図ることを目的とする。(会員)第4条 会員とは、前条の目的に賛同し、この規約を承諾のうえ会費を納入するものをいう。2.会員には会員証を発行する。3.会員資格は、4月1日から翌年3月31日までとし、会員より退会の申し出がない限り自動的に更新する。(年会費)第5条 会費は、年間2千円とし、次のいずれかの方法により納入する。(1)事務局に直接持参(2)指定口座に振込(会員の特典)第6条 友の会会員は、次の特典を受けることができる。(1)「中村元記念館友の会」会員証を発行します。(2)中村元記念館の「中村元記念館通信」をお送りします。(3)東方学院松江校入会金、継続事務費10%OFFにします。(4)記念館で販売する書籍・グッズの割引をします。(5)提携施設の入場料が割引料金になります。(6)友の会限定交流会のご案内をいたします。(会員証の紛失、盗難)第7条 会員は、会員証の紛失や盗難にあった場合、ただちに事務局に届け出て、会員証の再発行を受ける。2.会員証が名義人以外に利用され、会員または友の会に損害を生じさせた場合は、名義人がその損害の責を負う。(届出事項の変更等)第8条 会員は、氏名、住所等に変更が生じた場合には、すみやかに事務局に届け出る。(退会届)第9条 会員は、退会する場合はその旨を事務局に申し出る。(規約の変更)第10条 友の会は、必要があるときは、この規約を変更することができるものとし、変更する場合は、会員に通知する。(附則) この規約は平成27年4月1日から適用する。

アクセス

飛行機でお越しの方

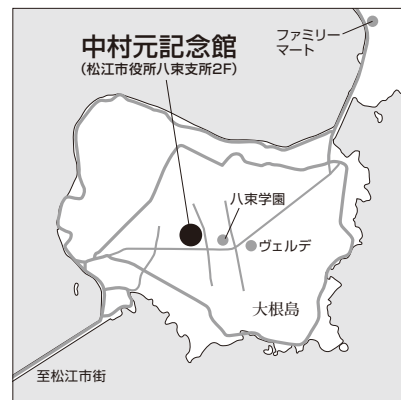
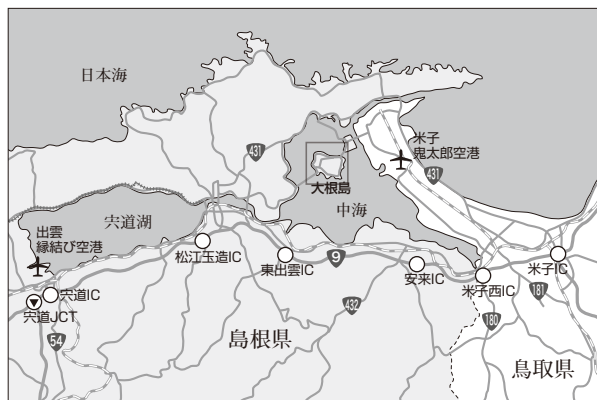
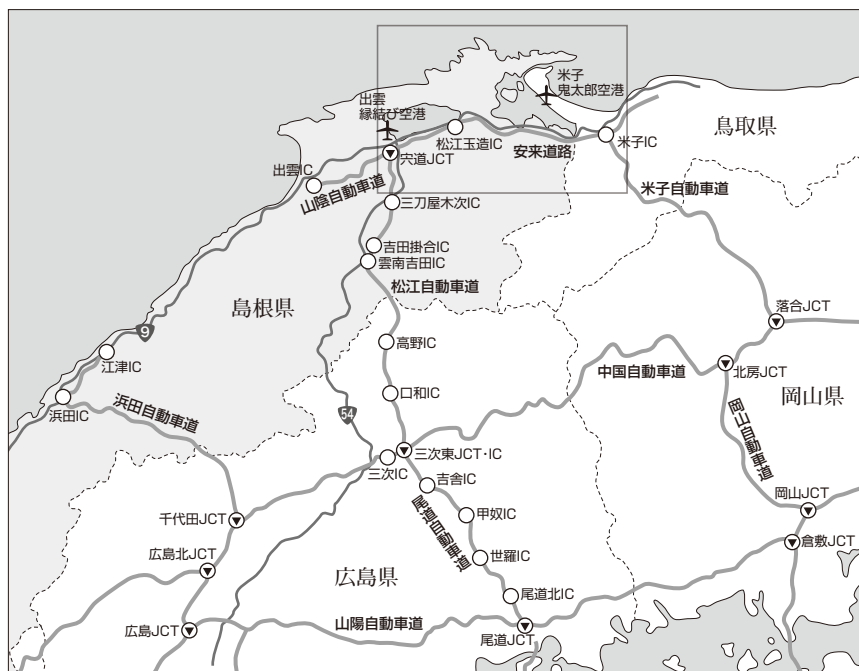
- 【米子空港から】車で約15分
- 【出雲空港から】車で約50分

車でお越しの方

- 【広島から】車で3時間（中国自動車道三次I.C.経由）
- 【岡山から】車で2時間15分（岡山自動車道・中国自動車道・米子自動車道）
- 【松江駅から】車で約25分
- 【境港駅から】車で約10分
- 【米子駅から】車で約35分

バスでお越しの方

- 【松江駅から】
 - ・松江市営バス「八束町」行で約50分、「八束支所・中村元記念館前」下車
 - ・松江境港シャトルバス約25分「由志園」下車のち徒歩約10分
- 【境港駅から】
 - ・八束コミュニティバス約20分「八束中央」下車のち徒歩約3分
 - ・松江境港シャトルバス約15分、「由志園」下車のち徒歩約10分





Nakamura Hajime
Memorial Hall
नाकामुरा हाजिमे स्मारक सभागृह

2017年2月16日 発行

発行所 特定非営利活動法人中村元記念館東洋思想文化研究所
〒690-1404 島根県松江市八束町波入2060番地 松江市八束支所2F
TEL 0852-76-9593/FAX 0852-76-9693
info@nakamura-hajime-memorialhall.or.jp
<http://www.nakamura-hajime-memorialhall.or.jp/>